

手賀沼公園駐車場地先 外来水生植物駆除作業

主催：手賀沼流域フォーラム実行委員会・美しい手賀沼を愛する市民の連合会

日時：2019年6月22日（土）9：30～11：45

2018年3月・9月に開催した外来水生植物駆除体験講座を受講し、登録したボランティアと美手連、手賀沼流域フォーラム実行委員他19名で、今年度最初のナガエツルノゲイトウ・オオバナミズキンバイの駆除作業を行なった。

胴長を着用したほぼ全員で沼の中に突入し、オオバナ、ナガエを引き抜き、田舟や桶に積み込み、陸揚げ。見事な連携プレーで見る見るうちにオオバナ、ナガエの山ができた。

作業をしてみて、水の中の作業は、水位が低い時期よりナガエやオオバナが生育し始める5月～6月が良いと感じた。理由は、①水位が高い ②ナガエ・オオバナがまだそんなに繁茂していない ③作業がやりやすい気温（暑すぎない、水温も上がっている、雨にぬれてもそれほど冷たくない）。①の水位が高いと良い理由は、①水中で引き抜くため、根の泥が洗われた状態で抜けてくること ②今回のように田舟や桶を使うと、岸までの水平移動が非常に楽であること。

駆除量：土嚢袋150袋、ガラ袋12袋 920kg（水分含む）



作業前



作業は楽しく！根っこごと引き抜き



作業後

日時：2019年8月21日（水）6：30～8：30

6月22日に駆除したナガエ・オオバナが、7月25日の定点観察時には、再び発芽しているのが見受けられた。根づいてしまう前に、水位の高いこの時期に駆除することとした。

体力を考慮し、酷暑の日中を避け、早朝6時半から作業を開始。前回と同様に、胴長を着用し、ナガエ・オオバナを引き抜き、田舟に積み込み、陸揚げした。今回は、土嚢袋より大きいガラ袋に詰め込み、作業はスムーズに完了。

前回6月22日の処分量が920kgで、今回の230kgはおよそ4分の1の量で、2ヶ月でそれだけ生えてきたということだ。やはり、手ごわい相手だ。取り敢えず、この場所だけでも殲滅とまではいかななくても、ボート屋さんたちが運航に困らないようにしていきたい。

処分量：ガラ袋17袋 230kg（水分含む）



作業前



ヨシの茂みをかき分けて、奥の方も



作業後

「第3回 手賀沼 外来水生植物駆除体験講座」報告

会場：我孫子市生涯学習センター アビスタ 第2学習室

主催：手賀沼流域フォーラム実行委員会・美しい手賀沼を愛する市民の連合会

開催趣旨

手賀沼では、外来水生植物の繁茂により、ボートの運行阻害や排水機場での被害が起こり、大きな脅威となっている。すでに大繁茂しているナガエツルノゲイトウ（以下、ナガエ）に加えて、オオバナミズキンバイ（以下、オオバナ）も侵入し、爆発的に増え続けている。

現在、美しい手賀沼を愛する市民の連合会では、手賀沼流域フォーラム調査事業として外来水生植物の実態調査を行い、行政や関係機関と協働し駆除活動を実施している。これらの活動を行うためには、さらに多くの市民の力が必要である。共に活動する人材を育成することを目的とし、調査や駆除活動を行うために必要な知識を修得するための講座を開催した。

スケジュール

- 9:35 講義「特定外来生物とは、手賀沼の状況の変遷、ナガエとオオバナの生態の違いなど」
講師：小倉 久子 さん（元千葉県環境研究センター 水質環境研究室長）
- 10:50 質疑応答
- 11:00 手賀沼公園棧橋へ移動、手賀沼船上見学
- 12:20 昼食 弁当支給（我孫子市生涯学習センター アビスタ 第2学習室）
- 13:00 手賀沼公園駐車場地先周辺 外来水生植物駆除作業
- 14:00 まとめ（研修室）
- 14:30 閉会

講義「特定外来生物とは、手賀沼の状況の推移、ナガエとオオバナの生態の違いなど」



小倉さんは、初めに「あなたにとって『美しい手賀沼』とはどんなイメージ？手賀沼にどうなってほしいですか？」と問いかけられた。

かつては多様な生き物が豊かな生態系を生み出し、きれいな沼をもたらしていたが、今や多くの外来の生き物によって様変わりし、実害も出る状況だ。

外来生物とは「人間によって自然分布域以外の地域に移動させられた生物

のことで、移動先で繁殖集団を形成し、その土地の生態系・農林漁業・人間の健康や日常生活などに影響を及ぼす。**外来生物法**（2005年施行）では問題を引き起こす海外起源の外来生物を**特定外来生物**として指定、飼養・栽培・保管・運搬・輸入が禁止されている。

しかし、地域住民やボランティアによる特定外来生物の防除が各地で行われるようになったことを受けて、2015年、一定の条件を満たせば、防除した特定外来生物を殺処分する目的の運搬や一時保管が可能となった。手賀沼でも美手連が行政と協働しながら、水田も含めた調査や駆除実験を試みてきた。

何が禁止されている？

—飼養、栽培、保管、運搬、輸入の取扱い—



ナガエは流域で1998年に初確認され、10年足らずで手賀沼流域全域に拡大。2015年には大群落の手賀沼公園岸に漂着し、船の航行を阻害。2017年には手賀排水機場に大量漂着した。オオバナは2017年6月手賀沼公園岸で発見され、9月に船上調査をしたところ、すでに沼のいたる所で繁茂していた。その後オオバナはナガエを土台にして覆いかぶさって繁茂し続けている。

駆除実験で最初に行った**遮光シートで覆う作戦**は、新たに漂着したナガエがシート上に繁茂してしまった。行政と協働で**重機を使っての駆除**は、2016年大堀川河口、2017年我孫子新田沼岸、2018年大津川河口で実施し、手法や効果について検証した。

ナガエ・オオバナは繁殖速度が非常に速い、流されても、漂着したところで増殖する。農業用水と共に水田に入り込み稲を負かす。陸上の乾燥した土地でも「陸生」となって繁茂する。とにかく食い止めねばならない！

「機械による計画的な駆除は行政がやること、私達ができることは、日常的なこまめな駆除と見張り、ぜひ皆さんもこの活動に参加を。」と呼びかけられた。

手賀沼船上見学

船上見学でも小倉さんに説明していただいた。ナガエとオオバナの混在、群落の見分け方、ハス群落の中にもナガエ・オオバナの群落が侵入していることを確認した。小倉さんは生物多様性の観点からも駆除が必要と話された。

駆除作業

手賀沼公園石組み護岸に漂着したナガエ・オオバナの除去、遮光シート設置箇所のヨシ等に混在しているナガエ・オオバナの引き抜きを実施した。根から丁寧に引き抜くよう作業を進めた。



まとめ

参加者34名。参加者からは、「専門的で詳しいお話を伺って非常に参考になった」「近くに住んでいるが、こんなにも広範囲に外来水生植物が育っていることを知らなかった。もっと美しい手賀沼になって欲しいので、たくさんの人に現状を知ってほしい」「駆除のむずかしさを実感した」「駆除の方法について検討する必要があると思う」など様々な意見があった。

家族で参加された方もあり、中学生1名、大学生6名を含む一般参加者17名の内、6名が調査や駆除活動の協力者として登録された。

オオバナミズキンバイ



7. 駆除・管理 -これからどうすればよいのか-

- とにかく、食い止めること
- オオバナを増やさないために、(その土台となる)ナガエの群落を、できるだけ作らない。
- 機械を使った大規模な駆除は必要。
- でもその後の、日常的なこまめな駆除活動がだいじ。
- 市民(団体)が得意なこと：駆除、見張り

駆除の先の「処分」の道を作ることが、是非とも必要